

資 料

本校の資料利用教育の一面

丸 本 郁 子

I 序 論

A. 資料利用の実体を知る必要性

設立より8年目を迎え実力を着実に付けていると思われる本校の教育であるが、図書その他資料の利用と言う面から光を当てた場合どうであろうか。一般の傾向として短期大学教育において図書館の役割は重視されず、その運営に問題が多い事は指摘され続け、改善の歩みも遅い様である。短期大学図書館実態調査を見ても、又実務担当者の研修会に出席してみても、各校の悩みは深い様である。

「高い教養と自由で堅固な精神」を培い、「知性に富み情操豊か」で「社会の中堅たる女性」を育てる事を目指す私共は、短大に与えられた時間の2年と言う短かさに常に途惑いを感じ、何をどの様に与えるべきかを、カリキュラムの面で、又行事の面で工夫をこらす。成長期にある学生達の2年間の進歩に目覚しいものがあるにしても、その期間内で完成した何かを提供する事は不可能であるし、無意味である。としたら考えられるのは2点、すなわち学び続けたいと言う知的好奇心の芽を育てる事と、学び続けていく手段と方法を身につけさせ事に絞れるのではないだろうか。

学び続ける資料や情報のありかの一つが図書館であり、多様な情報があふれ

ている現在必要なものを手に入れるには、かなりの技術がいる。こう考えてくると学生達に資料の利用を指導することは、単に短大の学習に役立つからと言うのではなく、逆に言えば、短大の授業はある一つのテーマを例にとりて、学ぶと言う手投げ方法をこそ学びとる場と言え、重点はむしろそちらにあるとも言えるのではないだろうか。この重要な教育の一面の実態が本校ではどうであるかを見てみたい。

B. 方 法

図書館の姿を知る為図書館員の持っているデータを用い、それを「日本の図書館1975」及び「私立短期大学図書館実態調査（第四回）」等と比較してみた。資料の利用状態を知る為には全学生に対しアンケート用紙を配り、その解答の集計を同様のアンケートを本校と同分野（英語・英文学）の教育を行っている女子短大3校の協力を得実施し、その解答結果とも比較し考えてみた。

「昭和49年度改訂版私立短期大学図書館改善事項」は全体を通して考えてみるガイドラインとして用いた。同様に Wheeler の Community College Library や Hostrop の Education inside the Library-Media Center は渡辺茂男氏の「メディアセンター論」と共にあるべき姿を探る手助けとなった。

II 本校の現状：図書館の姿

A. データ

大阪女学院短期大学は昭和43年4月英語科として発足。専攻科は47年4月より発足。

50年度職員数	専任教員	16名	} 計 38名
	非常勤教員	22名	
	事務員	3名	
	図書館員	2名	
学 生 数	1 年	156名	} 計 311名
	2 年	146名	
	専攻科	9名	

名も奉仕の対象としているので座席の対学生比率は3.5%となる。

蔵書数 23,138冊 (内洋書 3,244冊) 50年3月
 全国平均 22,100冊 (内洋書 3,591冊) “
 雑誌数 80種 (内洋雑誌 30種) “

蔵書構成 (表1)

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
%	8.5	9.8	10.4	9.3	8.6	1.7	1.0	5.8	8.2	36.7

年間図書購入冊数 1,615冊 (洋 211冊) 50年3月
 全国平均 “ 1,200冊 (洋 149冊) “

購入図書構成 (表2)

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
%	7.6	15.5	6.3	15.7	6.1	1.3	0.9	5.4	6.8	34.4

予算の配分は図書委員会で決定され、希望図書は自由に申し出る様になっているが、実際上の選書権と責任は図書委員の教員にある。図書委員会は館長の他に専任教員4名が教授会で任期1年で任命され、図書館員は会に出席していない。50年度の予算配分計画は次の通りである。

定期刊行物 254,000円

諸図書費 1,570,000円

内訳 英語関係 70万 アメリカ関係及び文化人類学 20万
 キリスト教 20万 女性問題 15万
 その他 32万

閲覧形式は開架式である。全国的にも79%はオープンシステムである。

貸出冊数は1人2冊まで2週間を限度。

全国の貸出冊数状態 (表3)

冊数	1	2	3	4	5	6~	制限なし
館数	3	85	35	1	6	2	4

本校の資料利用教育の一面

全国の貸出日数状態 (表4)

日数	4	5	7	8	10	14	20	その他
館数	1	3	103	10	10	16	1	2

開館時間 平日 9時—5時10分

土曜 9時—2時

分類方法は日本十進法分類によっている。全国でも94.5%はこのNDCを用いている。カードカタログは和書用と洋書用に分け、それぞれ著者目録、書名目録、号類目録がある。

館報は発行していない。全国では28.3%が発行している。

オリエンテーションは特に無い。全国では74.1%が何らかの形でオリエンテーションを行っている。

利用案内の印刷物は配置図以外には無いが、全国で配布している館は68.7%である。

視聴覚資料の管理は図書館で行わずLL教室が行なっている。全国では9%の図書館がA・V資料を集中管理している。

館外貸出しの利用状況 (表5)

50年度

分類	開館日数	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	平均
		9日	19日	25日	14日	11日	23日	21日	
0		0	5	1	2	0	5	20	4.7
1		1	23	18	10	18	12	37	17.0
2		0	15	5	10	0	4	20	7.7
3		2	7	11	2	21	9	37	12.7
4		0	0	0	0	3	1	6	1.2
5		0	2	0	0	0	1	1	0.5
6		0	1	0	0	0	0	1	0.2
7		4	10	5	2	3	0	1	3.5
8		1	10	14	1	11	7	13	8.1
9		49	180	140	82	21	76	118	95.1
計		57	253	194	109	77	115	254	151.2

相互協力も特に行なっていない。

B. 考 察

数量的に計れる事項に関しては、資料費・蔵書数・座席数・館員数等平均的な姿が浮んで来、理想像とは離れているが、一応統計的には基準を満していると評価してよい。

その内容がいかに充実しているかを考えてみたい。図書館の機能として、1 資料の収集、2 資料の組織、2 資料の蓄積、4 資料の探索と提供、5 資料利用の援助、6 書誌作成、7 専門職員の養成が図書館改善要項にある。

まず本学の教育の目的に合った資料を選択し収集しているかである。これはかなり主観的な判断となるし、基準としてそろえるべき基本の図書目録との突合せも必要で、今回の判断は差し控えるが、いくつかの問題点は目にとまる。

選書権を持っている図書委員会が短大と中高の二本建てであり、その間の連絡がスムーズに行なわれ難いので、館は一つのまとまった収書計画を持っていない。全体のバランスのとれた収書の責任を持つ機関が必要である。この実情の結果が基本的図書とも言えるレファレンスブック 収集の弱さに表われている。各教科を受け持つ教員で成立っている図書委員会には、それなりの問題もある。自分の専門分野のものには強いが、他の面で欠けるということで、それを補うのが収書ツールと呼ばれる二次資料である。本館にはその二次資料が少ない。そしてそれ等を利用して全体のバランスを持ったコレクションを作る為に専門的なアドバイスをするべき図書館員の立場が弱い。図書館員が、図書委員会の構成員として加ってほしいものである。館員が専門家であってほしい。英語科であるからには、その資料を選択・収集そして利用に供する任に当る訳で、英語のバックグラウンドを持つ人も欲しい。

資料の組織であるが、短大と中高の二つの要求が異なる時もあり、やりにくい点もある。責任分担を明確にし、館のまとまった姿を話し合いたい。

小さな短大の小さな組織の図書館には収集出来る資料には限界がある。図書館相互の協力活動を進めなければならないし、自館以外の資料を探索する手段がほしい。それによって研究に対する支援も、教科学習に対する支援も十分に

本校の資料利用教育の一面

出来ることになるのであろう。

本館の問題点は、その組織と運営から出てくる事も多いと気づく。これについては、遠藤トモ氏の論稿に的確に分析されているので、共通の点も多く、それを参考にしたい。

資料利用の援助はあまり消極的に過ぎる観がある。オリエンテーションは行いたいし、資料の利用法は授業の中に組み入れ、教師の方から計画的かつ積極的に取り組みたい。

Ⅲ 図書館利用に関するアンケート結果

実施期間 50年11月—12月

調査方法 アンケート用紙無記名記入

調査対象 本校学生及び大阪近辺の英語・英文科女子短期大学三校の学生
対象学生数 1,002名(表6)

	本校	A校	B校	C校	計
1年	143	118	187	173	
2年	114	113	154		
計	257名	231名	341名	173名	1002名

調査内容は多岐に渡るので、順次記す。

A 授業時間総数及び自由に用いられる時間

文部省の指導要領では2年間に62単位を取らねばならないが、学生達はそれをこなす為どれほど授業を受け、どれほど自由に学習する時間があるであろうか。

本校の学生は、1年生が週平均26時間、2年生は22時間の授業を受けている。全授業時間は42時間であるから、1年生で38%、2年生で48%自由な時間があることになる。他校よりは拘束されていない点は評価されて良い。全体像は「短大生は忙しい」の言葉通り、自主的学習の時間が、基本的な条件として確保され難い事がわかる。

表7 (ⅢA) 授業時間数一覧

		一週間の時間数	一日の授業	週平均授業時間	拘束時間%
本校	1年	42	50分授業	26	62%
	2年		8時間	22	52%
A校	1年	44	45分授業	30	68%
	2年		8時間	30	68%
B校	1年	39	50分授業	28	72%
	2年		7時間	20	51%
C校	1年	27	90分授業	20	74%
			5時間		
平均					63.8%

B 図書館にある各種の資料をどの程度使っているであろうか。

表8 (ⅢB) 用いられる図書館資料

図書館の資料で多く用いるもの4つを指摘させた集計

	本校 1年	本校 2年	A校 1年	A校 2年	B校 1年	B校 2年	C校 1年	計	全 順	休 位	本 校 位
辞書	107	96	77	74	75	127	119	675	2		2
百科辞典	68	48	32	35	116	121	104	524	3		4
年鑑、便覧	3	1	9	3	10	7	16	49	12		12
地名辞典	9	20	5	6	6	2	7	55	10		7
人名辞典	15	18	1	44	27	29	65	199	5		6
年表・統計	2	1	5	6	11	4	12	41	13		13
図鑑	9	15	5	2	19	23	16	89	8		8
書誌・索引	11	5	10	8	9	7	16	66	9		10
新聞	9	7	5	2	7	2	20	52	11		10
一般雑誌	66	54	79	75	86	77	37	474	4		3
学術雑誌	10	9	18	10	25	13	13	98	7		9
本(日本語)	102	105	110	100	134	117	89	757	1		1
本(英語)	38	14	31	35	18	21	36	193	6		5
インフォメーションファイル	0	2	1	2	3	0	1	9	16		14
フィルム・スライド	0	0	0	0	3	1	2	6	17		15
テープ・レコード	0	0	4	3	2	0	5	14	15		15
コンテンツシート	0	0	0	0	0	0	0	0	18		15
その他	0	0	3	3	5	0	4	5	14		15

本校の資料利用教育の一面

本校で用いられる資料を順にあげると、1 一般の本（日本語）（207）、2 辞書（203）、3 一般雑誌（120）、4 百科辞典（116）、5 一般の本（英語）（52）、6 人名辞典（33）、7 地図・地名辞典（29）、8 図鑑（24）、9 学術雑誌（19）となる。他の短大での数も同様な傾向を示している。一般の本の利用がずば抜けて多く、図書館に來なければ用いる事の出来ない各種のレファレンスブックの利用を見ると、辞書、百科辞典を除くと、他は急激に落ちている。英語科として辞書の利用が多いのは当然であろう。しかし他のレファレンスブックの使用が、百科辞典でこと足れりと言う傾向は問題である。これはIで見た様に図書館側の整備不足も一因であろうが、授業でその様な資料を用いる事を要求されていないのではないだろうか。

最近の日本の出版社から出されている英語の教材は、学生の労を省くべく詳細な注をつけている。その教科書を読んでいる限り、他の参考書が不必要なほどである。学生達が、卒業後も多様な資料を読み続けていく事を期待しての指導である限り、教科書偏重の安易な授業がなされているならば、改めたい。大学次元の学問の面白さを知らせるべく、幅と深みを持った調査や、本の読みを要求する課題を与えたいと思う。

図書館利用の指導法を研究し、充実したオリエンテーションを実践しているとの定評のあるC校の数を見てみたい。レファレンスブックの利用が、一般の本に比べて高く、辞書以外の資料も比較的良く使われている傾向を、はっきりと示している。C校は授業時間が他校より多く、図書館での学習時間が限られているにもかかわらず、この傾向を示している事は、資料の利用法を指導する事に効果がある事を示している。

C どの分野の本を利用しているか

本校の順位は、1小説、2英語関係、3旅行ガイド、4児童書（絵本・マンガ）、5随筆、6娯楽（お茶・お花）、7詩歌、8外国文学研究書、9美術、10家事（料理・服装）、11歴史、12哲学・宗教、13フランス語、14政治経済、15音楽、16就職関係、17社会学、18ドイツ語、19日本に関する英語の本、20生物学

表9 (ⅢC) どの分野の本を利用しているか

	本校 1年	本校 2年	A校 1年	A校 2年	B校 1年	B校 2年	C校 1年	計	全 順 位	本 校 順 位
哲 学・宗 教	17	7	4	10	31	17	49	135	8	12
歴 史	20	6	12	8	16	28	28	118	12	11
地 理	5	7	0	1	2	4	3	22		21
伝 記	6	4	4	0	6	4	14	38		23
政 治・経 済	16	4	5	2	37	19	7	80	16	14
社 会 学	9	7	2	0	10	7	0	35		17
教 育 学	4	5	5	3	5	3	24	54	20	24
数 学	1	0	0	0	1	1	1	4		31
物 理 化 学 地 学	3	0	14	4	17	17	13	68	18	28
生 物 学	9	4	0	0	24	14	41	92	15	20
医 学	2	1	1	3	0	2	0	9		28
家 事	14	15	30	45	27	14	14	159	6	10
工 学・産 業	0	0	0	1	0	0	0	1		32
美 術	17	18	9	9	15	32	12	112	13	9
音 楽	11	7	2	4	2	10	3	39	22	15
ス ポ ー ツ	7	4	4	4	75	16	21	131	9	22
娛 楽	21	20	30	19	25	25	20	160	5	6
言 語 学	4	0	12	14	10	22	32	94	14	27
英 語	72	46	51	47	75	72	91	454	2	2
ド イ ツ 語	14	1	0	0	2	0	0	17		18
フ ラ ン ス 語	17	4	9	0	6	3	0	39	22	13
国 語	1	1	3	3	4	5	18	35		30
小 説	107	89	105	96	77	100	66	640	1	1
戯 曲	4	5	10	5	1	13	1	39	22	24
随 筆	26	23	25	9	12	17	17	129	10	5
詩 歌	17	20	14	8	16	27	19	123	11	7
日本文学研究書	1	5	10	17	2	8	11	54	20	26
外国文学研究書	8	29	30	32	21	49	24	193	3	8
絵本・児童書	36	30	17	41	11	6	6	147	7	4
日本に関する 英語の本	4	10	8	6	7	4	12	55	19	19
就職関係の本	8	10	2	4	33	9	2	78	17	15
旅 行 ガ イ ド	28	39	18	21	37	14	11	168	4	3

本校の資料利用教育の一面

21地理, 22スポーツ, 23伝記, 24教育, 24戯曲, 26日本文学研究書, 27言語学
28物理・化学・地学, 28医学, 30国語, 31数学, 32工学・産業となる。

他校と比較しても、全体の傾向としては、女子の英語・英文科系の短大生らしい同様の数を示している。細かく見ると差も目立ち、学校によって教科の力の入れ具合が窺える。全体では順位の高い外国文学研究書が、本校ではあまり上位を占めていないのは、英文科ではなく、英語科であるためであろう。言語学も、他校では比較的使用されているのに、本校で読まれていないのは、理論より実用を重視しているせいであろうか。4校とも宗教的背景のある短大であるが、哲学・宗教の順位はC校を除いては、あまり上位ではなく、本校の学生も期待されるほどに読んでいない原因は何であろうか。

D 目録（カードカタログ）の利用

開架式の場合カードカタログはあまり利用されない傾向にあるが、どうであろうか。「よく用いる」は1%に過ぎず、「時々用いる」が著者目録で15%、

表10 (III D) 目録カードの利用 (%)

		本校 1年	本校 2年	A校 1年	A校 2年	B校 1年	B校 2年	C校 1年	平均
A 著者目録	よく用いる	2	0	5	3	2	10	5	4
	時々用いる	15	14	60	59	28	43	58	39
	全然用いない	83	85	33	35	60	44	27	52
B 書名目録	よく用いる	2	0	11	3	2	11	4	5
	時々用いる	19	25	61	58	37	41	57	35
	全然用いない	79	75	26	38	54	47	27	45
C 分類目録	よく用いる	3	0	2	2	7	0	0	2
	時々用いる	3	8	14	16	8	17	38	15
	全然用いない	87	91	83	83	79	80	49	77
D 洋書目録	よく用いる	1	2	0	2	1	0		1
	時々用いる	5	4	20	24	3	11		9
	全然用いない	94	94	78	77	83	88		60
E 件名目録	よく用いる			3	0	0	0		0
	時々用いる			9	11	2	5		3
	全然用いない			87	86	84	92		50

書名目録で21%，分類目録は5％であり，「全然用いない」のは著者目録84％，書名目録77％，分類目録は89％である。

4校の集計では，「時々用いる」が著者目録で39％，書名目録は35％とかなり利用されているし，「全然用いない」のは半数又はそれ以下である。A校C校の場合，著者と書名目録は半数以上の学生が利用している。

E NDCの分類番号の定着度

自分に必要な個所だけでも図書館で用いられている分類番号が分かっている
と便利なものである。学生達が利用するであろうと思うアメリカ小説(933)
と日本の詩(911)それと本校の重点の一つであるキリスト教のイエス・キリス
トの伝記(192)を知っているかどうか，いくつかの番号の中から選ばせて
みた。ほとんどの学生が回答出来なかった。正答数はアメリカ小説34人(13

表11 (III E) NDC分類番号の定着率(%)

	本校 1年	本校 2年	A校 1年	A校 2年	B校 1年	B校 2年	C校 1年	平均
アメリカの小説	9	19	35	24	10	32	13	19
日本の詩	6	13	1	7	10	7	8	9
キリストの伝記	8	13	1	7	7	10	8	9

%)，日本の詩23人(9%)，イエス・キリスト伝26人(10%)であった。彼女
達がほとんど分類番号に無関心である事がわかる。ただ本校の場合，1年生に
比べて2年生の正答数が，少ないなりに，はっきりと2倍になっていて，利
用経験が増すと身につく事が示されている。

F 新聞，定期刊行物，辞書，百科辞典の利用

新聞を読む者は，日本語，英語を含め10%台で，全然読まない者が80%以上
である。他校も同様である。一般雑誌は，日本語のものは1/3の学生が時々読んで
いるが，半数以上は，ほとんど読んでいない。学術雑誌は90%が全然利用し
ていない。雑誌の利用度は他校の平均に比べて低い。記事索引も90%近くが，
全然利用せず，他校の利用度も低い，それを10%下まわっている。

英語，英文科である限り，英英辞書，英語百科辞典の利用には慣れておいて

本校の資料利用教育の一面

表12 (ⅢF) 新聞・定期刊行物・辞書・百科辞典の利用度 (%)

		本 校		A 校		B 校		C 校	全体
		1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	
新聞 (日本語)	よく用いる	1	2	1	0			2	1
	時々用いる	13	14	13	10			24	10
	全然用いない	85	83	84	90			72	54
新聞 (英語)	よく用いる	0	0	1	0			0	0
	時々用いる	14	10	19	11			16	9
	全然用いない	85	89	75	88			82	55
一般雑誌 (日本語)	よく用いる	4	5	11	12	5	5	3	6
	時々用いる	39	32	50	68	53	51	39	47
	全然用いない	57	63	39	21	44	41	52	46
一般雑誌 (英語)	よく用いる	6	3	3	2	1	1	2	2
	時々用いる	28	20	34	43	26	37	17	29
	全然用いない	66	77	61	60	75	61	67	67
Jownal (日本語)	よく用いる	1	1	1	0	1	0	2	1
	時々用いる	11	8	29	21	14	24	27	19
	全然用いない	88	91	67	80	83	75	62	78
Jownal (英語)	よく用いる	0	0	0	3	2	0	0	1
	時々用いる	9	7	17	22	18	14	14	15
	全然用いない	90	92	81	75	79	83	78	82
記事索引	よく用いる	1	0	1	2	2	0	1	1
	時々用いる	10	7	19	21	22	14	25	17
	全然用いない	86	90	77	73	76	81	68	78
英々辞典	よく用いる	2	2	5	15	5	5	5	5
	時々用いる	39	37	42	61	63	62	43	50
	全然用いない	59	60	51	24	31	30	46	42
英語 百科辞典	よく用いる	0	0	5	4	5	7	3	4
	時々用いる	27	22	29	54	27	46	43	36
	全然用いない	72	77	64	39	68	45	47	59

ほしい。辞書を「良く利用する」と答えた学生は2%，時々利用する者は3割強。百科辞典は「時々利用する」者は $\frac{1}{4}$ で、残りの $\frac{3}{4}$ は全然利用しない。他校

の平均では、英々辞書を時々利用するものが半数以上であり、百科辞典も半数近くのもが利用している。

G 図書館資料を用いる理由

本校も、他校の学生も同じ順位を示し、1 レポートや研究発表の為、2 授業の予習復習の為、3 試験準備の為と教科に関連しての使用が中心である。これは大学図書館の利用として自然であろう。

表13 (ⅢG) 図書館資料を用いる理由 (%)

	本 校		A 校		B 校		C 校	全 体	順 位
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年		
レポート発表のため	73	82	84	89	88	90	95	87	1
予習・復習のため	71	55	57	69	76	70	60	67	2
試験準備のため	59	57	48	45	57	50	71	55	3
楽しみのため	41	46	42	46	13	22	13	29	4
自分の教養のため	20	33	33	23	10	22	14	17	5
クラブ・ サークル活動	7	4	24	15	14	12	1	11	6
就職準備のため	35	53	0	0.8	6	2	10	1	7
そ の 他	0	2	0	0.8	1	1	1	0	8

(注、複数列举の為和は100にならない)

H どの様に図書館を利用しているか

自分で持ち込んだ教科書や参考書を使って予習・復習をするために用いる事のある者は89%を占め、これはもし自習室があればそれで充分なことがわかる。他校の集計でも8割の者が同様の答をしている。59%は図書館の資料を用いて授業の準備をするために利用すると答えている。広く読書を楽しむためが43%、借し出し手続きのためだけの来館は41%、くつろいだり、待ち合せをするために利用する場合があると答えた者は33%ある。全体の平均でこれは22%に過ぎず、本校の学生は図書館利用を正しく認識していない者が多いとも思えるし、他にくつろぐ施設が足りないためとも思える。

本校の資料利用教育の一面

表14 (ⅢH) 図書館利用の目的(%)

	本 校		A 校		B 校		C 校	全 体
	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	
教科書等を持ちこみ 予習・復習をするため	91	86	63	71	90	77	75	80
図書館の資料を用いて 授業の準備をするため	56	61	45	69	70	71	71	65
図書の借出し手続きの ため	44	36	75	76	33	46	50	50
広く読書を楽しむため	40	47	48	27	21	33	29	34
くつろいたり・待合せ のため	29	37	27	16	21	16	13	22
図書館の資料を用いて 自由な研究をするため	13	11	21	14	14	17	17	17
そ の 他	0	2	3	2	8	7	3	4

(注、複数列举の為和は100にならない)

I 図書館資料を用いる必要の多い科目

授業に関連して図書館資料を使うのが多い科目を三つずつあげさせた。自分の準備した資料や、学生に各種の本を買わせて、豊かな資料利用の指導をしている教師も多く、この数が決してその教科の指導面の評価に結びつくのではなく、現実の図書館への依存度を示すものとして見ていきたい。科目名で答えた者や、一般的に答えた者などまちまちで正確な順位ではないのだが、多い者を順にあげてみる。1 講読 (44), 2 セミナール(35), 3 英文学史 (28), 4 経済社会論 (23), 5 英語 (22), 6 オーラル・社会学・演習 (各17), 9 米文学史 (16)……となる。

本校の特色の一つである少数の学生が興味に合せたテーマの下に教師に指導され学ぶ事を目指したゼミナールが上位にあがっている事は、それが効果的に役割を果している事を示すと言えよう。各校に特色があるので、簡単な比較は

表15 (Ⅲ I) 図書館資料を用いる必要の多い科目名 (上位13位まで)

順位	本校		A校		B校		C校
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年
1	講読 28	英文学史 28	英米文学概説 53	英文演習 40	英語 76	英語演習 37	音声学 99
2	ゼミナル 21	米文学史 16	物理 32	英語 33	体育概論 75	言語学 36	キリスト教概論 80
3	英語 18	講読 16	英語 32	児童文学 26	地学 45	英語 35	生物学 43
4	演習 17	オーラル 16	英文講読 24	英文講読 20	宗教 36	英特講 27	英語 22
5	フランス語 15	ゼミナル 14	化学 19	英米文学概説 18	英文法 30	地学 21	自然科学史 22
6	経済社会論 15	経済社会論 8	アメリカ社会史 18	宗教 16	生物 26	生物 21	文学 22
7	ドイツ語 12	社会学 7	英作文 16	英米作品研究 12	英文講読 23	講読 21	宗教 19
8	音楽 10	ビジネスイングリッシュ 6	音楽 13	音楽 10	体育 19	英会話 16	英米書講読 11
9	社会学 10	英文作法 5	歴史学 10	道徳研究 8	経済 16	国文学 16	基礎演習 10
10	キリスト教 9	英語 4	L L 9	国語学 8	科学史 14	経済 16	時事英語 9
11	英文作法 9	スピーチ 3	フランス語 9	英作文 6	英作文 13	米文学史 12	体育 9
12	生物学 6	教科教育法 3	国文学 8	英米文学史 6	英会話 8	英文学講義 9	心理学 7
13	法学 4	体育講義 2	宗教 4	日本文学研究 5	フランス語 4	気象と生活 8	歴史 6

本校の資料利用教育の一面

出来ないが、目立つ違いは他の3校では一般教育の科目でも上位に位するものが見られるのに、本校ではそれ等の科目ではあまり図書館資料を用いる事が学生に求められていないらしい事である。Bで見られた様にレファレンスブックの多様な使用がされていない原因はこの辺にありそうである。

J レポートを書く時の資料

自校の図書館の資料を用いるのが当然多いのであるが、A校C校に比べて本校の学生の図書館依存度は低い。他の館を利用する割合は家にある資料を用いるのに比べて低いが、これは一般的に図書館利用の態度が身につけていないのと、Aで見たごとく利用する時間が不足するからであろう。

表16 (ⅢJ) レポートを書くときの資料入手先 (%)

	本 校		A 校		B 校		C 校	全 体
	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	
本校の図書館	58	77	81	84	50	71	91	72
他の図書館	20	39	63	52	86	85	47	58
家にあるのを用いる	76	64	66	50	67	68	72	67
自分で新しく買う	31	54	42	75	26	53	24	41
友人に借りる	17	29	15	21	34	9	30	23
先生に借りる	1	5	0	2	1	0	2	2
無しで書く	17	5	9	1	3	3	6	6
レポートを書いたことはまだない	5	2	0	0	0	0	0	1

(注、複数列挙の為和は100にならない)

K レポートの書き方指導

「短期」大学であっても高等教育の場である限り、小はレポート、大は論文を書く方法と形式は教えておきたいものである。中学高校で一応の事は習って来ているとしても、短大は短大のレベルのものを指導すべきであろう。

1年生で3%、2年生で9%指導を受けたと答えている。他校もだいたい同様である。A校のみが30%ほど指導されたと答えている。全学生が指導を受け

表17 (ⅢK) レポートの書き方指導 (%)

	本 校		A 校		B 校		C 校	全 体 %
	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	
中学高校で習った	17	6	2	5	4	3	25	9
短大で指導を受けた	3	9	28	33	2	9	7	10
指導をされなかった	80	82	69	58	95	87	65	78

る様にしていきたいものである。

L 図書館資料の量と質の評価

この設問の重点は学生に館の評価をさせる所にあるのではなく、まだ不十分な面の多い短大図書館であるのは認識され、それを前提にし、彼女達のうちにどれほど資料の重要性が自覚され、どれほど要求度があるかを見る所にある。

表18 (ⅢL) 図書館資文の評価 (%)

	本 校		A 校		B 校		C 校	全 体 %
	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	
充 分 で あ る	1	2	5	2	2	0	18	5
普 通 で あ る	47	42	58	61	34	18	65	46
足 り な い	50	53	35	36	63	75	14	48

充分であると答えた者は2%に満たなかったが、普通と答えた者は45%であった。ほぼ半数が一応これで良いと考えている。この要求度の低さは、Kでみたごとくレポートの書き方の指導が少なく、Iの結果が示すごとく図書館資料を用いての学習があまり各教科で要求されていないことによるのではないと思われる。

C校の場合、充分と評価する者が18%、普通が65%、足りないと答えたものがわずかに14%である。表15で見られるごとく多様の教科で図書館利用を要求されているにもかかわらず、この様に評価される事はC校の図書館が短大の教育目的に合う収集を努めている成果と思える。本校も学生の要求を掘り起し、よ

本校の資料利用教育の一面

り良いコレクションを作る方向へ向きたいものである。

M 他の図書館の利用

本校以外の図書館へよく行く者は15%，行った事のある者は67%，全然利用していない者は18%である。現状では時間的制約もあろうが，卒業後も引き続き地域にある図書館，資料室の利用の必要が出て来るであろうし，必要とする生活をしてほしいと願うので，短大に在る間に，各種の機関の紹介をし，卒業後の利用の橋渡しをしておく必要があるのではないだろうか。

表19 (ⅢM) 他の図書館の利用度 (%)

	本 校		A 校		B 校		C 校	全体 %
	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	
よ く 行 く	15	15	24	24	28	33	14	22
行 っ た 事 は あ る	63	68	59	61	66	62	76	66
全 然 利 用 し な い	21	15	16	12	5	2	8	11

N 図書館に対する要望

第一希望の「昼休みに開館してほしい」と第三の「閉館時間を遅くしてほしい」の二点は早速11月より実行に移された。二番目の中高生と別の閲覧室がほしいと言う希望は，その理由をもう少し掘り下げてみた上で検討しなければならないであろう。「読みたい本が少ない」が上位なのは，館が学生の要求を充

表20 (ⅢN) 図書館に対する要望

順位	希 望 事 項	1 年	2 年	計
1	昼休みに開館してほしい	71	73	144
2	中学・高校生と閲覧室を別にしてほしい	74	56	130
3	閉館時間を遅くしてほしい	48	47	95
4	読みたい本が少ないので買ってほしい	54	37	91
5	図書館員の態度サービスを良くしてほしい	37	43	80
6	休館日を少なくしてほしい	29	33	62
6	設備(採光、通風、ロッカー、冷暖房)を良くしてほしい	38	24	62
8	新しく買った本の案内やニュースがほしい	31	29	60
9	机・イスを増してほしい	35	22	57

10	教科に関連した本を増してほしい	24	18	42
11	休暇中も開館してほしい	15	18	33
12	資料の利用法を指導してほしい	17	15	32
13	借出し期間を長くしてほしい	18	13	31
14	複写機を図書館内にほしい	9	19	28
15	新聞・雑誌を増してほしい	15	12	27
16	開館時間を早くしてほしい	14	10	24
17	テープ、フィルム、レコードがほしい	15	8	23
18	個人用の閲覧コーナーがほしい	14	8	22
19	読書会、コンサートを催してほしい	11	10	21
19	借出し冊数を増してほしい	9	12	21

分汲取れていない面と共に、良い本の紹介が不足している点も示しているといえよう。

○ 読む本を選ぶ動機

本校も他の3校の合計も一致して第一の動機は偶然棚に並んでいるのに興味も引かれてと言う事であった。図書館側としては、彼女等の興味を持つ分野で

表21 (ⅢC) 読む本を選ぶ動機

本 順	校 位	事 柄	本 総 校 数	4 校全 体 順 位
1		ブラット棚を眺め面白そうだから	186	1
2		その作家が好きだから	136	2
3		友人にすすめられて	93	4
4		新聞・雑誌の書評を読んで	83	5
5		授業で強制されて	56	3
6		先生にすすめられて	42	6
7		テレビドラマなどで話題になっているので	39	8
8		ベストセラーだから	37	7
9		書誌・目録で探して	29	9
10		広 告	22	10
11		主題に興味があるから	21	11
12		家族にすすめられて	5	12
13		そ の 他	3	13

本校の資料利用教育の一面

読ませたい本を、興味を引く形で並べたら良いのかもしれない。全体の数で「授業で強制されて読む」が3位であるが、本校では5位であった。

「主題に興味があるから」が下位を占めているのは女子短大生の読書傾向であろうか。

P 家庭で購読している週刊誌，月刊誌

短大生の家庭の文化環境を知るため、購読誌名を書いてももらった。第一の特徴は全体に雑誌を購読している家が非常に少ないことである。月刊誌で一番多いのは「暮らしの手帖」(13)。週刊誌は「Nonno」(18)である。誌名を見ると、その内容は軽いもの、視覚的なもの、実用書が多く、いわゆる総合雑誌、教養誌が少ない。実際にはもっと購読されているのであろうが、学生達の目にふれ意識にのぼって来るものがこの範囲のものとして解釈したら良いだろう。本校のリストと他の3校のリストは、ほとんど同じ傾向を示している。総体に購読数は多くない。

表22 (Ⅲ P) 家で購読している月刊誌

本校 順位	誌 名	本校 実数	4校 全体 順位
1	暮らしの手帖	13	1
2	スクリーン	7	2
3	装苑	5	6
4	リーダーズ ダイジェスト	4	3
4	文芸春秋	4	4
4	Enghih Age	4	9
4	若い女性	4	5
8	ミセス	3	11
8	P H P	3	7
10	T V 英会話初級	2	8
11	太陽 いんあなとりっぶ	2	

(他41種)

表23 (Ⅲ P) 家で購読している週刊誌

本校 順位	誌 名	本校 実数	4校 全体 順位
1	N o n n o	18	1
2	A n A n	5	2
3	週間朝日	4	3
3	毎日グラフ	4	14
5	少年サンデー	3	17
6	News Week	2	4
6	週刊現代	2	10
6	少年マガジン	2	6
9	週刊新潮	2	8
10	セブンティーン	1	4
	マーガレット	1	8
	毎日ウィークリー	1	6

(他12種)

家庭で触れられなければ、短大で接する機会を作らねばならない。図書館においての定期刊行物の利用が、半数は全然読んでいない状態である事を考え合せると、「知性に富み」「高い教養を身につけ」「社会の中堅」たる女性を形成するためには、現代社会の重要な情報源である各種の雑誌の利用指導も行う必要があると思われる。

Q 1カ月に自主的に購入する本の数

授業で要求される以外に自分から何冊ぐらい本を買うかを調べてみた。1, 2冊が半数ほど、次に1冊以下が23%, 3, 4冊が10%台、ほとんど買わないのも10%台であった。図書費の値上りを考えても、この程度でないかと思われ、なお一層の図書館の充実が望まれる。

表24 (ⅢQ) 一カ月の本の購入冊数 (%)

	本 校		A 校		B 校		C 校	全 体 %
	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	
ほとんど買わない	15	10	14	10	15	5	10	12
1冊以下	24	23	16	23	27	26	23	23
1, 2冊	43	52	44	44	40	37	41	43
3, 4冊	12	13	22	15	14	22	17	17
5冊以上	6	1	2	1	2	7	3	3

R 愛 読 書

書名で答えてくれたものと、好きな作家名で答えてくれたものがあり、集計はまとめずにそのまま載せたのできれいな形とならないが、一端は表25で見られる。第一の特色は書名が多岐に渡り、共通のものはあまり出ない点があげられる。一冊のものが68種もあり表からは割愛した。傾向ははっきりしていて、ほとんどが小説である。現代作家の新しい作品も選ばれているが、どちらかと言うと、かなり以前から青年達に読み継がれている作家の作品が多く、若者共通の問題である「人生とは何か」「愛とは何か」を求めている作品が多い。推

本校の資料利用教育の一面

表25 (ⅢR) 愛読書(好きな作家)

書名又は作家名	実数	書名又は作家名	実数
石川達三	7	山本周五郎	1
松本清張	4	立原道造	1
遠藤周作	4	サガン	1
二才の原点	4	罪と罰	1
星の王子様	3	車輪の下	1
ノンノ	3	紀ノ川	1
こころ	3	愛と死	1
友情的	3	失われた世界	1
赤毛のアナ	3	若草物語	1
塩狩峠	3	大探砂	1
塩木寛之	2	一握の砂	1
五詩集	2	サガン	1
歴史物語	2	ジェイン・エア	1
人間失格	2	青春論	1
狭き門	2	人生論	1
赤と黒	2	恋愛論	1
嵐が丘	2	レベッカ	1
マッガン	2	狭き門	1
聖書	1	赤ずきんちゃん	1
島崎藤村	1	さきんちゃん	1
三浦綾子	1	されど我らが日々	1
三島由起夫	1	ラブストーリー	1
ヘッセル	1	怪盗ジバゴ	1
ドストエフスキー	1	路傍の石	1
北杜夫	1	贈る言葉	1
高村光太郎	1	青春の門	1
チェーホフ	1	その他の	34
		無回答	175

理小説やマンガをあげる者もある。問題は無回答数の多さで、愛読書を挙げなかった者が1年生で98名、2年生で77名、計175(68%)ある点であろう。多感な10代から20代に移り変わる年代の学生達が愛読書と呼べる作品に出会っていないのは、どの様な原因があるのでしょうか。これは他の3校にも見られる傾向で、A校の無回答は140名(61%)、B校は200名(59%)、C校は100名(58%)である。

S 最近読んで感銘を受けた作品

塩狩峠、水点、沈黙、青春の門、大地等いくつか上位にかたまがるが、愛読書と同様、各自の感銘を受けた作品も広範囲に渡っている。文学特に小説に集中すること、その主題が「人生いかに生くべきか」的なものが多いのもRと同様である。

上位を占めるものの中に、キリスト教的作品が多いのは本校の学生の精神生

表26 (ⅢS) 感銘を受けた作品

書名	実数	書名	実数
塩狩峠	14	人間の条件	1
水点	7	砂の女	1
沈黙	5	香華	1
青春の門	5	他人の顔	1
大地	5	涙の河をふり返れ	1
幸福の限界	4	道ありき	1
20才の原点	4	この土の器をも	1
ひつじヶ丘	4	橋のない川	1
泥にまみれて	3	先生ぼく歩きたい	1
人間失格	3	お母さん僕の体	1
女の一生	3	順調に悪くなっているね	1
幼くして愛を知らず	2	なんで英語をやるの	1
青春の蹉跎	2	一粒の麦もし死なずば	1
華岡青州の妻	2	異邦人	1
涙をたらした神	2	緋文字	1
私が捨てた女	2	赤と黒	1
海と毒薬	2	人間の絆	1
されど我らが日々	2	風と共にさりぬ	1
贈る言葉	2	二都物語	1
愛すること信じること	2	貧しき人々の群れ	1
伸子	1	ロビンソンクルーソー	1
路傍の石	1	Daddy Long Legs	1
真実一	1	天路歷程	1
愛と死	1	シンデレラリパティー	1
友情	1	河のほとりで	1
破戒	1	戦争の不条理	1
砂の器	1	その他の	28
		無回答	126

本校の資料利用教育の一面

活に、キリスト教が働きかけ、その感受性、価値観を決める要素となっている事を示すと見て良いであろうか。

現代作家の新しい作品、話題作も多いし、時事性を持つテーマ、社会的広がりを示す作品も多くはないが登場している。

無回答は1年73名、2年53名、計126名(49%)である。A校の無回答は44%、B校は45%、C校は48%である。

T ま と め

各項目を眺めて浮び上ってくる大阪女学院短期大学生の姿は、現在大きく進んでいる高等教育の大衆化の動きをそのままに現し、いわゆるノンブック世代の知的にもノン・エリートである。知的好奇心の向く範囲は限られていて、取得態度も受動的かつ消極的である。広範囲に渡る図書館の資料の用い方を知らないし、用いてもいない。

英語を教える事に限っても、その教授上のいくつかの困難点—背景となる知識の不足、解釈力の弱さ、表現力の乏しさ、話題内容の少なさ—の原因が、彼女達の読書が小説に片寄り、しかも全学生の半数は本離れである所にある事がわかる。

短大側の指導であるが、計画的に進められたプログラムの下では、それだけの効果があり、放置されている所は取り残されている姿が出ている様だ。われわれ教師の図書館への依存度や期待度がかかってくると思われる。

IV 展 望

短大教育は生涯教育の場として位置づけられつつある。受験体制によって歪められた12年を過ぎて来た学生達が、その重圧から逃れ、真の意味で個人の資質と能力を開花さす場が彼女達の大部分には最終の公的教育的場である短大であろう。それは与えられるものを受動的に受け取る教育形態では決して達成出来るものでなく、学問の面白さと自己の可能性に目覚めさせ、自主的に学ぶ方法を育てることによってのみ達せられるのである。

方向としては、アメリカにおいてコミュニティカレッジが高等教育の大衆化

している意義を高く評価し、それを積極的に荷い、あらゆるレベルの学生を受け入れ教育していく為に、伝統的な教育方法を捨て、図書館（メディアセンターとして名実共に変わったもの）を中心にしての教育へと移っていった様に私共も進まねばならないと思う。

本年度のカリキュラム委員会で資料利用教育が取り上げられ、51年度から学年始めに図書館利用のオリエンテーションが計画され、サマーコースの中にも組み込まれることとなった。その様子をみながら、52年度には一般教育科目として単位を与え、情報学（仮称）を設置する計画もなされている。担当者に任せるのではなく、全教師が図書館の資料に気を配り、要求を出し、管理職と図書館員の協力を得、図書館のあり方と授業のあり方を変えていきたいものである。それが短大の教育をより目標にそったものにしていくこととなると思う。

来年度は「短大図書館年」元年としたいものである。アンケートは継続し、その結果を見守りたい。

V Summary

Present Instructional Practice in the Use of Information Resources

The importance of fostering the ability to use the information resources in junior college is recognized because it not only serves to help the students in their college study, but because the technique is also essential for their life-long education.

The present survey is to investigate the current practice of the use of library materials through questionnaire responses both from our students and those in three other junior colleges.

An effort will be made to see how the library is effective in assisting the students' needs and in fulfilling the aims of the junior college.

Some notable findings are:

1. Students are non-elite academically; most of them are not

本校の資料利用教育の一面

- book-oriented.
2. Students do not have enough time to do their independent study at school.
 3. The library materials used by students are limited.
 4. Their use of library materials is largely course stimulated.
 5. Yet teachers lack in their efforts to integrate library use with their instruction.
 6. Students and teachers fail to make adequate requests for the necessary materials.
 7. Planned programs are effective in encouraging the use of varied materials.

Steps to improve the situation are beginning to be taken, but the goal will be achieved only when administrators, faculty and librarians cooperate fully in sharing this responsibility.

VI 資 料

A 図書館利用とそれに関連するアンケート

I 次の時間表であなたの授業時間の部分に○をつけて下さい。空き時間は空白で残して下さい。

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
月										
火										
水										
木										
金										
土										

II 図書館の資料のうちあなたが多く用いるもの四つをえらび○をつけて下さい。

- | | | |
|---------------|--------------------|---------------|
| 1. 辞書 | 2. 百科辞典 | 3. 年鑑・便覧 |
| 4. 地図・地名事典 | 5. 人名事典 | 6. 年表・統計 |
| 7. 図鑑 | 8. 書誌・索引 | 9. 新聞 |
| 10. 一般雑誌 | 11. 学術雑誌 | 12. 一般の本（日本語） |
| 13. 一般の本（英語） | 14. インフォメーション・ファイル | |
| 15. フィルム・スライド | 16. テープ・レコード | 17. コンテンツ・シート |
| 18. その他_____ | | |

III 図書館の本を利用する時、どの分野のものを多く用いますか。四つえらび○をつけて下さい。

- | | | | |
|-------------------|----------------|----------------|-----------|
| 1. 哲学・宗教 | 2. 歴史 | 3. 地理 | 4. 伝記 |
| 5. 政治・経済 | 6. 社会学 | 7. 教育 | 8. 数学 |
| 9. 物理・化学・地学 | 10. 生物学 | 11. 医学 | |
| 12. 家事（料理・ファッション） | 13. 工学・産業 | 14. 美術 | |
| 15. 音楽 | 16. スポーツ | 17. 娯楽（お茶・お花も） | |
| 18. 言語学 | 19. 英語 | 20. ドイツ語 | 21. フランス語 |
| 22. 国語 | 23. 小説 | 24. 戯曲 | 25. 随筆 |
| 26. 詩・歌 | 27. 日本文学研究書 | 28. 外国文学研究書 | |
| 29. 絵本・児童書 | 30. 日本に関する英語の本 | | |
| 31. 就職関係の本 | 32. 旅行ガイド | | |

IV 図書館においてある目録（カード・カタログ）をどれぐらい利用していますか。

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| A 著者目録 | 1 よく用いる | 2 時々用いる | 3 全然用いない |
| B 書名目録 | 1 よく用いる | 2 時々用いる | 3 全然用いない |
| C 分類目録 | 1 よく用いる | 2 時々用いる | 3 全然用いない |
| D 洋書の目録 | 1 よく用いる | 2 時々用いる | 3 全然用いない |
| E 件名目録 | 1 よく用いる | 2 時々用いる | 3 全然用いない |

本校の資料利用教育の一面

V 本学の図書館は日本十進法分類を用いています。次の資料がほしい時、その分類番号は次のどれですか。○をつけて下さい。

- | | | | | |
|----------------|-------|-----|-----|-------|
| 1. アメリカの小説 | (133 | 470 | 933 | 360) |
| 2. 日本語の詩 | (111 | 281 | 911 | 019) |
| 3. イェス・キリストの伝記 | (192 | 392 | 842 | 411) |

VI 図書館にある次の資料をどのくらい利用していますか。

- | | | | |
|---------------------------|---------|------------|-----------|
| A 新聞(日本語) | 1 よく読む | 2 時々読む | 3 全然読まない |
| B 新聞(英文) | 1 よく読む | 2 時々読む | 3 全然読まない |
| C 一般雑誌(日本語) (文芸春秋・暮しの手帳等) | 1 よく | 2 時々 | 3 全然 |
| D 英語一般雑誌 | | 1 よく | 2 時々 3 全然 |
| E 学術雑誌(日本語) | | 1 よく | 2 時々 3 全然 |
| F 学術雑誌(英語) | | 1 よく | 2 時々 3 全然 |
| G 雑誌の記事索引 | 1 よく用いる | 2 用いることもある | 3 全然用いない |
| H 英々辞典 | 1 よく使う | 2 使うこともある | 3 全然使わない |
| I 英語の百科辞典 | 1 よく使う | 2 使うこともある | 3 全然使わない |

VII あなたが図書館の資料を使う理由を三つえらび○をつけて下さい。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 広く自分の教養のため | 2. 楽しみのため |
| 3. レポートや研究発表のため | 4. 授業の予習・復活のため |
| 5. 試験の準備のため | 6. クラブ活動・サークル・活動のため |
| 7. 就職に関する知識を得るため | 8. その他_____ |

VIII 主としてどのように図書館を利用していますか。三つえらび○をつけて下さい。

1. くつろいだり待ち合せをするため
2. 広く読書を楽しむため
3. 自分で持ち込んだ教科書や参考書を使って予習、復習をするため
4. 図書館の資料を用いて授業の準備をするため
5. 図書館の資料を用いて自分で自由な研究をするため
6. 必要な図書の借し出し手続きをするため
7. その他

IX 授業に関連して図書館資料を使うのは、どの科目が多いですか。多い順に三つ書いて下さい。

1. _____ 2. _____ 3. _____

X 短大でレポートを書いた時資料はどうしましたか。三つえらび○をつけて下さい。

1. 本学の図書館を利用 2. 他の図書館を利用 3. 家にあるのを借りる
4. 自分で新しく買う 5. 友人に借りる 6. 先生に借りる
7. 自分で考え、特に資料は使わない 8. レポートを書いたことはまだない

XI レポートの書き方について

1. 中高ですでに書き方を教えてもらった
2. 短大で書き方の指導を受けた
3. 書き方の指導を特にされたことはない

XII 本校の図書館資料の量や質をどう思いますか。

1. 充分である 2. 普通 3. 足りない

XIII 現在、本学の図書館以外の図書館(公共・その他)を利用していますか。

1. よく行く 2. 行った事はある 3. 全然利用していない

XIV 本学の図書館に対して、あなたが今、最も注文したいことは何ですか。三つほどあげて下さい。

1. _____
2. _____
3. _____

XV 読む本をえらぶ時どのようにして決めますか。多いもの三つを○でかこんで下さい。

1. 授業で強制されて 2. ベストセラーだから
3. テレビドラマなどで話題となっているから
4. 友人にすすめられて 5. 先生にすすめられて
6. 家族にすすめられて 7. 新聞・雑誌の書評を読んで
8. 書誌・目録で探して 9. 広告

本校の資料利用教育の一面

10. その作家が好きだから 11. その主題のものならなんでもよいから
12. ブラッと棚を眺め面白そうだから手にとって
13. その他_____

XVI 家又は自分でとっている月刊誌、週間誌名を書いて下さい。

XVII 授業で必要とする本以外に自分で自由に何冊ぐらい本を買いますか。

1. ほとんど買わない 2. 月1冊以下 3. 月1, 2冊 4. 月3, 4冊
5. 月5冊以上 (図書館・友人・家族から借りる)

XVIII 愛読書があれば書いて下さい。

XIX 最近読んで感銘を受けた作品があれば書いて下さい。

B 資料及び参考文献

日本私立短期大学協会。昭和49年改訂版 私立短期大学図書館改善要項。24頁。

「私立短期大学図書館実態調査(49.5.1)最終報告」昭和50年度 私立短大図書館担当者研修会資料集第一分冊。49—60頁。

短期大学設置基準。昭和50年文部省令第21号。

大阪女学院短期大学。昭和50年度学生要覧。

日本図書館協会。日本の図書館 1975。211頁。

「短大図書館の現状と問題点(特集I)」現代の図書館。11巻1号, 1973, 1—25頁。

「図書館にこういう人を: 大学図書館(特集)」現代の図書館。12巻1号, 1974, 15—23頁。

遠藤トモ。「私はこれをえらんだ一図書館の運営」短期大学教育。21号, 1963, 89—96頁。

杉浦允。「情報管理と短大図書館」短期大学教育。30号, 1972, 112—119頁。

岡田真。「短大の本質とオリエンテーション」短期大学教育。32号，1974，6—20頁。

多田基。「これからの短期大学」短期大学教育。33号，1975，6—16頁。

渡辺茂男。「鎖國的な学校教育：メディアセンター論」図書館雑誌。68巻3号，1974，88—91頁。

Wheeler, Helen Rippier. The Community College Library: A Plan for Action.
Hamden, Conn.: The Shoe String Press, Inc., 1965.

Hostrop, Richard W. Education inside the Librany-Media Center. Hamden,
Conn.: The Shoe String Press, Inc., 1973.

附 記

今回のアンケートをまとめるにあたり，御協力下さり又有益な御教示を下さった梅花短期大学の遠藤トモ，茂義樹，松島春子，大谷女子短期大学の青木幸子，三宅興子，永田慶三，プール学院短期大学の植田哲子及び本校の浜口みづらの諸先生方そして図書館員の方々に心から感謝致します。